（定價二錢）　明治二十二年八月七日　（郵便報知）

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千九號
明治廿一年八月七日　火曜日
舊戊子六月廿九日（庚、戊）
日出午前四時五十四分　入午後六時三十八分
月出午前六時零一分　入午後六時二十三分
週期午前四時五十八分
週期午後五時二十分
（西紀一千八百八十八年）

時事新報

米國雜說　七

商賈主義の社會

高橋義雄

蒸氣器械の利用、人力の節儉　歐米諸國は器械の國にして瑣細の部分までも巧に器械を利用せる其中にも米國は新開の國にして人の勞力不廉なるが故に器械の利用緻密にして隅々までも能く人力を節するは實に驚嘆の外あきなり試み米國の都府に入りてフト其周圍を顧みれば汽車前に走り電燈後に連き家に入りて電話機の應答を聞きエレベートルに乘て樓上に登れば雲ゆる高嶺の上に瓦斯水管等の設けありて恰も平屋に居るが如く更に商業社會に至れば物價の高低する其側より數百里外の客人は電信を以て賣買を注文し注文を受けて之れに返答する其往復電信の紙片は流の如くに器械より流れ手紙を認ひる活字ならば談話を保存する道具も皆器械を動かして幾千萬の商賈を行ふも更に多くの人力を働らかず商賈已に了りて人々市外に出でんと欲すれば軒外忽ち汽車馬車の來るあり車馬汪上の渡船場に着すれば車馬を乘上ふる其家は忽ち中斷して運動を始めやがて彼岸に達する等器械の利用至らざる所なしと云ふべし凡そ器械を利用すれば其器械に促されて人も亦活動せざる可らざるが故に米國人は事務に當りて非常に活潑動勉にして日本抔にては十數人を用ふる可き處を僅々兩三人にて辨ずるの場合もあるに非ず余一日外友に誘はれてニューヨーク府の或るパタ問屋に至りるが此問屋は府中にても中々有名の者にして一年間の商賈高殆んど百萬弗に上る由、日本流の考へ以て為ふれば小僧番頭幾名の外に若干の荷物運送方等を要するならんと思ひの外、店中には主人と番頭二人あるのみにして右れ商賈を取り扱ふに聊かも不手廻りと生ずるとなしとの事なり畢竟人の勤勉なるに加へて商賈上の諸機關自から相整頓するが故よして例へば手近く小賣商店の體裁に就て申すも日本の商店は坐賣法を採用し番頭は火鉢を抱へて店の端近く防禦線を張り小僧は後陣に差控えて謹んで其命令を待つ、客來れば番頭防禦線の處にて之れに接し小僧は番頭の命を聞て一々庫の貨物を持ち出し番頭小僧を呼ぶの聲、小僧之れに應ずるの聲は恰も犬の遠吠の如く貨物持運びの人、紛々相旁午して店中の雜沓極まれりと云ふ可し西洋商店は之れに反し店の體裁都て所謂勤工場風にして客來れば之を貨物の集積る案内して客の自から撰びに任せ斯くて貨物を賣るとき之を受取書とを小箱に封去之れを店中に張り詰めたる銅線に吊す小箱は線上を渡りて直ち勘定方の帳場に至る、斯くて勘定方は帳合を了り釣錢と小箱に入るゝや否小箱は線を傳はりて忽ち賣子の手に達す其間毫も人の奔走を要ざるが故に數名の賣子、能く大商店を支配して客に不便を感せしむることなし即ち日本の商店を改良し西洋風の立賣法を以て之と支配するとも爲らば小僧番頭と三分一に減ずるも尚綽々として餘裕ある可し尤も日本の商店はてい番頭小僧の多きを以て之を店の景氣と爲し人間の勞力の豫飾品と爲すの意味もあらん而も有用の者として却て器械の利用を忘却するは國の經濟上より見て利害果して如何なる可きや我新主義商賈人の大に注意す可き所なり

第六新工夫の實行甚だ速し　新工夫を以て人に先じて利益を占めんとするは商賈國人の常にして去年米國專賣特許局の報告に據れば同年中特許の出願い三萬五千六百十三件にして千八百八十三年以來特許出願の數は年々三萬五千件より下りたることなしと云へり斯くて新工夫の夥しく世に出づるに當りて苟も實用の使ある ものは人々爭ふて先づ之を採用せんと欲し新工夫者が其工夫と凝らす程に之を用ふるものも亦苦心して其新工夫を利用するとにして新工夫一たび世の評判を博すれば其傳播の迅速なること殆んど想像外に出づるものあり現に彼の電話機の如き發明日淺きにも拘はらず今は米國内に至らざる所なく又彼の電氣燈の如きロッキー山上の村落にても時に之を見掛くる程にして其最も稀服する所は都鄙の進歩に懸隔なく田舎の人も抜目なく文明の新利器を利用するの一點に在るなり斯くて米國人が都鄙押し並べて常に新工夫の利用を怠らざるは其事業敏にして大仕掛あるが故に其一部分に新工夫を導きて大に便利を感ずるともあれば夫れ丈けにても年に幾千幾萬の利益を得るとにして其關係の少なからざるが爲めある可し例へば有名なるペンシルバニヤ鐵道會社の如き一箇年内に使用する乘車切符の費用にても凡そ二十萬弗以上に達し若し簡便なる切符を發明して之を採用するときは鐵道會社の經濟上に忽ち幾萬弗の利益を生ずるとにして現に同會社にて發行する乘車切符數百種の中ユデピス　パテント　ティッケットとてデピス氏の工夫に係る切符あり此切符は其形細長くして片隅に千八百八十八年同八十九年と順次に千八百九十九年までの年を記し次に一月より十二月までの月を記し其次に一日より三十一日までの日を記し置き又假に此切符を東京横濱間の者とすれば一枚の切符は品川大森と各ステーションの名を誌め例へば千八百八十八年八月一日新橋より大森まで乘車せんとするものあれば鐵道會社の切符方は同年月日の處を剪み又大森以下の處を切り棄つるの手順にして一枚の切符を以て各ステーションに達する切符を兼帶し又之を數年間に流用すると得るあり此切符は近來の名工夫にして迚ては各鐵道會社の採用する所と爲り鐵道經濟上の一助として其效力甚だ多かるる可しと云へり又近來の新發明として學者社會の注意を促したる者の中に　プロフェッサー　グレー氏の電話機改良法あり蓋し從來の電話機は用談を先方に通ずるに高聲を發せざる可らざるが故に商賈上秘密の飛談などと行ふに便ならず且つ雙方に通ずるものは雙方の音聲のみにして後ふ證跡を留めざるが故に金錢上の受授を辨ずるに不都合なりしグレー氏の考案は係るものは電信と電話とを合體したる者にして此に小僧の多きを以て之を店の景氣と爲し人間の勞力の豫飾品と爲すの意味もあらん而も有用の者として却て器械の利用を忘却するは國の經濟上より見て利害果して如何なる可きや我新主義商賈人の大に注意す可き所なり

第六新工夫の實行甚だ速し　新工夫を以て人に先じて利益を占めんとするは商賈國人の常にして去年米國專賣特許局の報告に據れば同年中特許の出願い三萬五千六百十三件にして千八百八十三年以來特許出願の數は年々三萬五千件より下りたることなしと云へり斯くて新工夫の夥しく世に出づるに當りて苟も實用の使ある ものは人々爭ふて先づ之を採用せんと欲し新工夫者が其工夫と凝らす程に之を用ふるものも亦苦心して其新工夫を利用するとにして新工夫一たび世の評判を博すれば其傳播の迅速なること殆んど想像外に出づるものあり現に彼の電話機の如き發明日淺きにも拘はらず今は米國内に至らざる所なく又彼の電氣燈の如きロッキー山上の村落にても時に之を見掛くる程にして其最も稀服する所は都鄙の進歩に懸隔なく田舎の人も抜目なく文明の新利器を利用するの一點に在るなり斯くて米國人が都鄙押し並べて常に新工夫の利用を怠らざるは其事業敏にして大仕掛あるが故に其一部分に新工夫を導きて大に便利を感ずるともあれば夫れ丈けにても年に幾千幾萬の利益を得るとにして其關係の少なからざるが爲めある可し例へば有名なるペンシルバニヤ鐵道會社の如き一箇年内に使用する乘車切符の費用にても凡そ二十萬弗以上に達し若し簡便なる切符を發明して之を採用するときは鐵道會社の經濟上に忽ち幾萬弗の利益を生ずるとにして現に同會社にて發行する乘車切符數百種の中ユデピス　パテント　ティッケットとてデピス氏の工夫に係る切符あり此切符は其形細長くして片隅に千八百八十八年同八十九年と順次に千八百九十九年までの年を記し次に一月より十二月までの月を記し其次に一日より三十一日までの日を記し置き又假に此切符を東京横濱間の者とすれば一枚の切符は品川大森と各ステーションの名を誌め例へば千八百八十八年八月一日新橋より大森まで乘車せんとするものあれば鐵道會社の切符方は同年月日の處を剪み又大森以下の處を切り棄つるの手順にして一枚の切符を以て各ステーションに達する切符を兼帶し又之を數年間に流用すると得るあり此切符は近來の名工夫にして迚ては各鐵道會社の採用する所と爲り鐵道經濟上の一助として其效力甚だ多かるる可しと云へり又近來の新發明として學者社會の注意を促したる者の中に　プロフェッサー　グレー氏の電話機改良法あり蓋し從來の電話機は用談を先方に通ずるに高聲を發せざる可らざるが故に商賈上秘密の飛談などと行ふに便ならず且つ雙方に通ずるものは雙方の音聲のみにして後ふ證跡を留めざるが故に金錢上の受授を辨ずるに不都合なりしグレー氏の考案は係るものは電信と電話とを合體したる者にして此に

刑事の件々を記すれば其筆の運動は電氣に由りて彼れに傳はり先方に件の文字を出現する趣向にして其通信の際に音聲を用ひざるのみならず先方の筆跡、此方の紙上に留まりて金鎖上の用談には其文字を記者として見ることを得るなり此新案を實行せる爲めにニューヨーク府にては已に會社を創立しされば不日實業社會に出現して從來の電話機を壓倒せることも爲らんか米國にては斯く續々として新工夫の出現するにも拘はらず實業社會は之れに應じて其新工夫を實行することを怠らざるが故に學理と實業と密着して今日文明の偉觀と生ずるに至りたるなれ獨學者の說に磁石は支那人が始めて用ひたるものなりと云ひ學者の說に活字は墨武天皇の時に用ひたることと云へども爾來其成跡の廣く世に現はれざりしは何ぞや實業者の無頓着にして之を採用せざりしが故ならん即ち新工夫の大切なる程に之を利用するとも亦甚だ大切なれば余は我實業社會の人が世上有形的の進歩に着目して之を看過せざらんことを希望するものなり

官報

○東京府告示第二十六號
來ル八月七日ヨリ臨時府會區部會ヲ開ク
明治廿一年八月六日　東京府知事男爵高崎五六

○辭令

愛知縣西春日井郡長　高木　永敏
愛知縣丹羽葉栗郡長　戸田　仙橘
愛知縣中嶋郡長　青樹　英二
愛知縣海東海西郡長　横田太一郎

（各通）

明治二十年二月福田井組惡水路ニ係ル費用支出徵收法評決ノ爲メ水利土功會開設ノ際縣令及訓令ノ趣旨ヲ誤解レ議員ノ改撰ヲ爲サヽルニ依リ該會ヲ取消シ更ニ評決ヲ要スルニ至ラシメタルノミナラス既ニ其誤解ヲ覺知スルモ仍ホ之ヲ改メス其儘評決セシメタル段不都合ニ付罰俸半箇月ヲ科ス（八月三日内閣）

大藏省國債局長　田尻稻次郎
日本銀行監督官ヲ命ス（八月四日同）
總政局次長海軍大佐　柴山　矢八
伊藤總政局長賜暇旅行不在中局務代理被仰付（八月四日海軍省）

○正倉院寶庫開鎖　去る四日午後三時奈良正倉院寶庫開鎖右ニ付キ壞地利國レオポルド、フェルヂナンド親王は一昨五日午後參觀アリダル旨同地出張ノ九鬼圖書頭ヨリ電報ヲ以テ上申セリ

雜報

○戰鬪射擊演習　と題して昨日の紙上に掲げたる一項は事實相違の廉ある由に付取消す

○明治倶樂部設立の計畫　今度前嶋密、矢野文雄等諸氏の發起にて明治倶樂部と云ふを設立する爲め來る十日頃集會を開くよしなるが會員は大抵改進黨の人なりと云ふ

○大坂商界　目今の動靜　優存劣敗は社會の常理とし云へば商界に立ちて競爭を爭ふもの算多きは勝ち算少きは敗するまと自然の成行ある可きか、大坂にて投機者流の輩の目たる大坂商船株い高低常に一あらず一上一下の際には每度優者と劣者と相別れて巨額の損得其所を異にすること常あれども手負死人の數多きこと此度の取組合戰に如くものあるる可らず先頃の時事新報にも見えし如く現に七八九三箇月の限りにて一萬株の取引約束あり（右三箇月中九月が最も少く八月が一番多しと云ふ）たる其第一陣の勝敗い去る七月廿九日の大坂商船會社總會にて決し見事賈方の勝利となりしるが賈方が賈ひたる時は二十三四圓なりしもの當時は二十九圓臺となりて其間一株五六圓の相違あり假令に一萬株の三分一即ち三千株のものとするも已に二萬圓の利益なり末は利害分目の大勢は俄然三十四圓臺に上りたれば今後は大坂商船會社の如く大坂商船會社らず兎角投機者の今より三年前世に布あるや大坂の紳士局主務省との交渉を經て新取引所を設立せんとて主務省に向へ一萬餘圓と開之が爲めに同所に向て設立願書の發起人の頃あり斯くて主務省に向き諸條と理由とを記し始めて其の許可なりしは大坂新取引所と最初より新取引所（堂嶋米商會所）同所は重税の爲めの如く利害の考へ如ければ勢附きは利害の寒暖を異現は今年春の頃同延期を請願せんと上京して規約の事間にては一方が意ば是れ死すべし同も異なるか抔評せ方先づ引けと云ふより思諦らめてを經て稍可なりの商務大臣の更代に引所は新任の大臣るに足れりとて已かの如くに思惟し昂騰を爲しより新と抛ち千辛萬苦の延期請願は其關の如く果して許可するものにて自ら就き其心も心なら株式取引所延期陳する爲め上京す件は大坂商業に大と云ふ

○瓊浦丸沈沒詳報　事に就きては度々接手せしものと都より胴鯨を粕身積入れ去月廿二日しが其夜は終夜南壁廿三日も快晴よ

（郵便報知）